

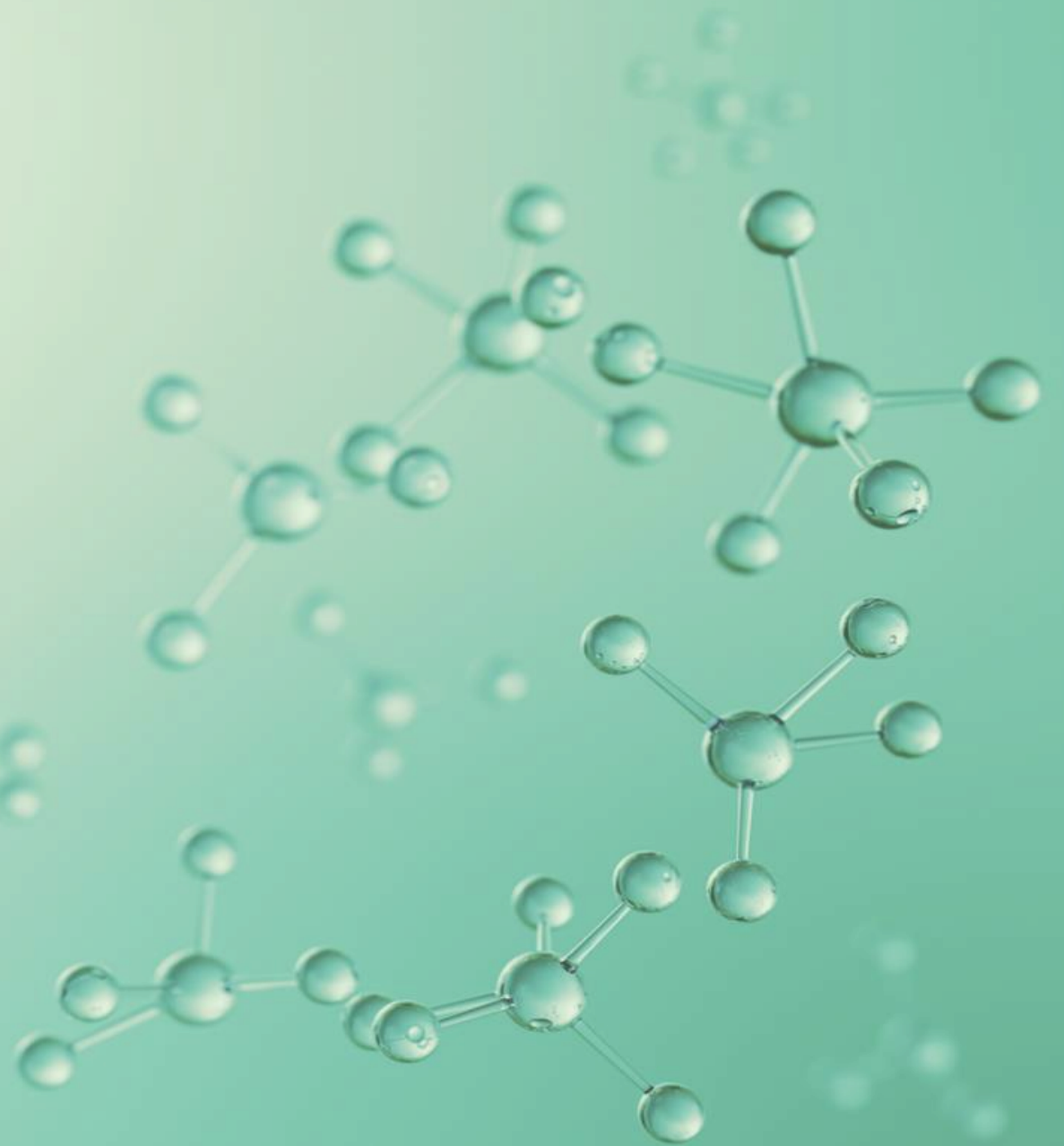


証券コード：7932

株式会社ニッピ

2026年3月期第2四半期（中間期）
決算説明資料

2025年11月18日



INDEX

1 2026年3月期第2四半期 決算概要

2 2026年3月期 業績予想

3 APPENDIX

1 2026年3月期第2四半期 決算概要

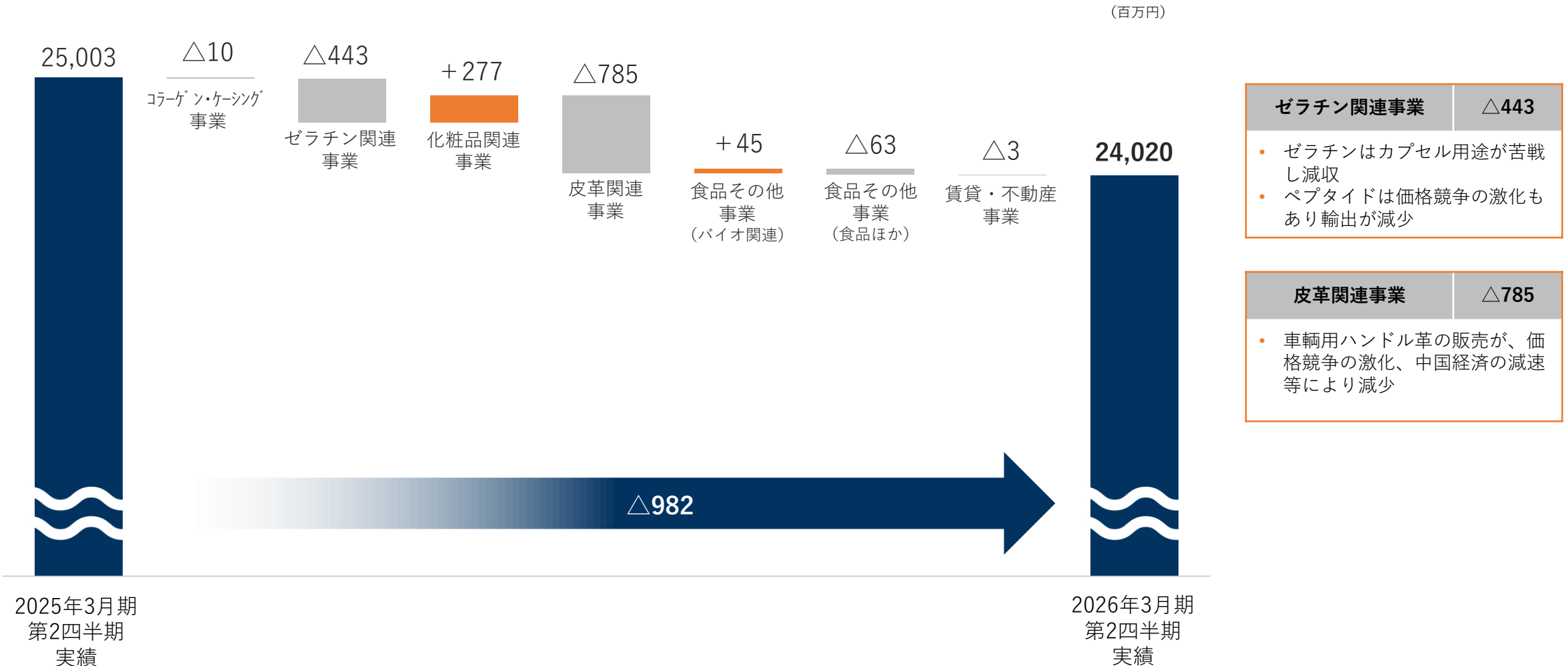
2026年3月期第2四半期 決算概要（連結）

前年同期比および計画比ともに減収増益で着地
コラーゲン・ケーシング工場で減損損失を計上するも、中間純利益は増益を確保

単位：百万円	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q当初予想	2026年3月期 2Q実績	前年同期比 (26.3期2Q実績/25.3期2Q実績)
			※	
売上高	25,003	24,500	24,020	△3.9%
営業利益	1,646	1,700	2,056	+24.9%
営業利益率	6.6%	6.9%	8.6%	+2.0P
経常利益	1,559	1,700	2,146	+37.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,109	1,200	1,351	+21.9%

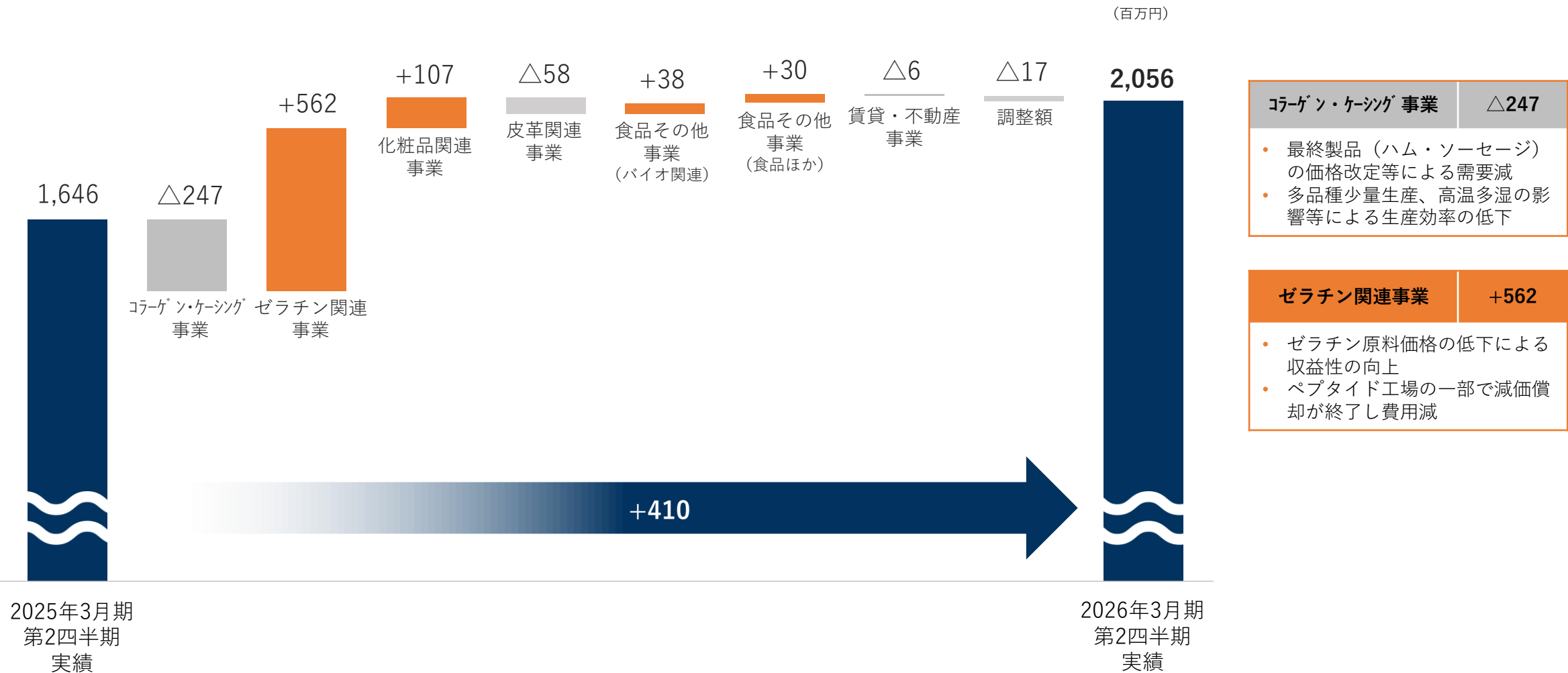
連結売上高 増減要因分析

ゼラチン関連事業および皮革関連事業の販売が、価格競争の激化、中国経済の減速等により減少



連結営業利益 増減要因分析

ゼラチン関連事業が、原料価格および減価償却費の低下により大幅増益



セグメント別業績（連結）

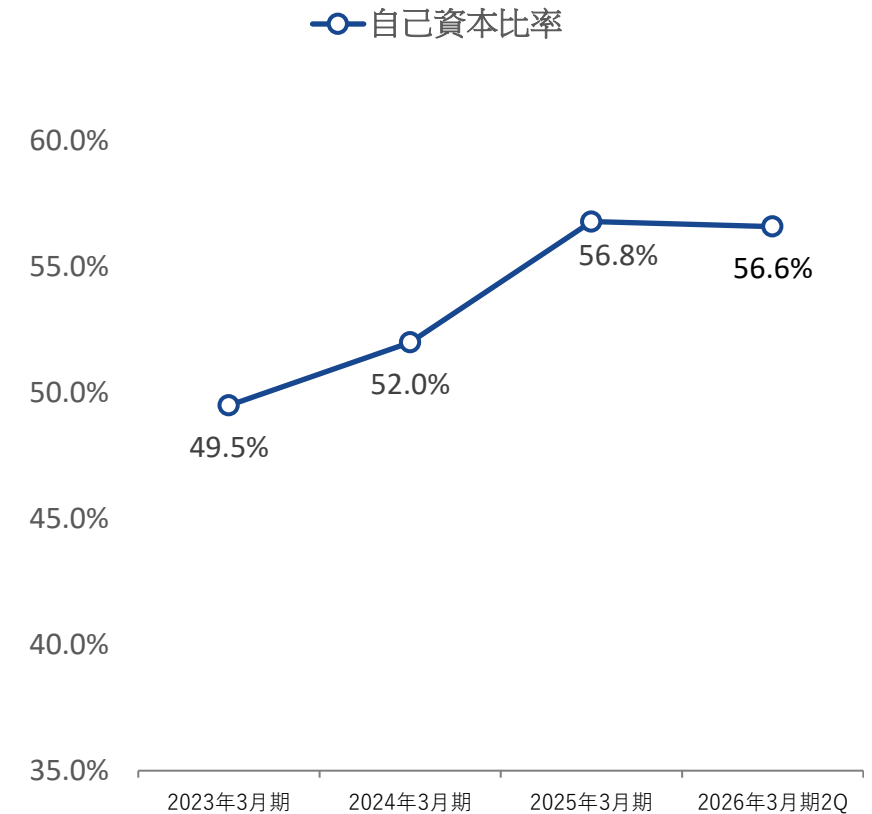
売上高は減少も、ゼラチン原料価格の低下等もあり増益

単位：百万円	売上高				営業利益			
	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前期同期比		2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ ケーシング事業	4,679	4,668	△10	△0.2%	577	330	△247	△42.8%
ゼラチン関連事業	6,585	6,142	△443	△6.7%	605	1,168	+562	+92.9%
化粧品関連事業	3,743	4,021	+277	+7.4%	474	582	+107	+22.6%
皮革関連事業	3,843	3,057	△785	△20.4%	139	81	△58	△41.6%
食品その他事業 （バイオ関連）	528	574	+45	+8.7%	74	113	+38	+52.5%
食品その他事業 （食品ほか）	5,088	5,025	△63	△1.2%	234	264	+30	+13.1%
賃貸・不動産事業	533	530	△3	△0.6%	421	414	△6	△1.6%
調整額	—	—	—	—	△881	△ 898	△17	—
合計	25,003	24,020	△982	△3.9%	1,646	2,056	+410	+24.9%

連結貸借対照表

連結配当性向70%の実施による自己資本のコントロールを行う
純資産および自己資本比率は横ばいで推移

単位：百万円	25年3月期 期末	26年3月期 2Q	増減額
流動資産	27,574	27,939	+364
現預金残高	8,933	9,261	+327
固定資産他	42,597	42,454	△143
資産合計	70,172	70,393	+220
流動負債	14,692	15,083	+390
固定負債	14,910	14,699	△210
純資産	40,569	40,609	+40
負債・純資産合計	70,172	70,393	+220
自己資本比率※	56.8%	56.6%	△0.2p

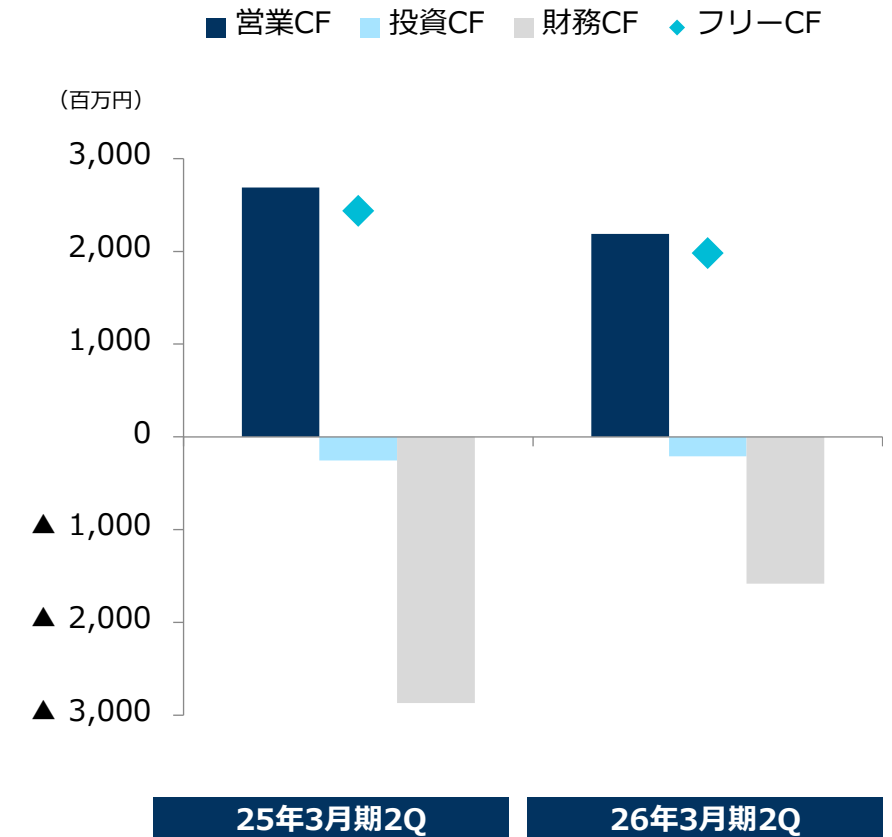


※ 自己資本比率 = 自己資本 / 総資産 × 100 / 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 被支配株主持分

キャッシュ・フローの状況（連結）

営業CFおよびフリーCFは安定的に確保、財務CFは配当金の支払額が増加し、有利子負債は微増となる

単位：百万円	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	2,690	2,184	△505
投資活動による キャッシュ・フロー	△253	△205	+48
フリー・キャッシュ・フロー	2,436	1,979	△456
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,869	△1,583	+1,285
現金及び現金同等物の 増減額	△344	+327	+672
現金及び現金同等物の 期末残高	8,261	9,088	+827



2 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 連結業績予想

業績予想の修正は行なわず、中期経営計画1年目の目標数値達成を目指す

単位：百万円	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前年同期比 (26.3期予想/25.3期実績)
売上高	49,141	49,000	△0.3%
営業利益	3,627	3,800	+4.8%
営業利益率	7.4%	7.8%	+0.4P
経常利益	3,615	3,800	+5.1%
親会社に帰属する 当期純利益	2,457	2,600	+5.8%
一株当たり当期純利益（円）	854.46	904.11	+5.8%
ROE	6.3%	—	—
ROIC	4.9%	—	—

3 APPENDIX





代表取締役社長 伊藤裕子

自然の創造物を人々のくらしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。
品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、
これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。
当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、
その研究を続けてまいりました。
コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、
今なお新たな分野に挑戦し続けています。
今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、
「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

2004年9月	当社入社
2014年10月	大倉フーズ株式会社取締役
2015年7月	当社執行役員
2017年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役
2019年6月	同社常務取締役
2019年7月	当社経営企画室プロジェクトリーダー

2021年6月	当社取締役、経営企画室長、 化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当
2021年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長
2023年4月	当社代表取締役社長（現）
2023年6月	一般財団法人日本皮革研究所理事長（現）

会社概要



商号	株式会社ニッピ（Nippi, Incorporated）
本社所在地	〒120-8601 東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
従業員数	487名（2025年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長 伊藤 裕子
事業所	生産拠点： テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所： バイオマトリックス研究所（茨城県）

事業内容

コラーゲン・ケーシング事業
ゼラチン関連事業
化粧品関連事業
皮革関連事業
賃貸・不動産事業
食品その他事業

主な子会社

株式会社ニッピコラーゲン化粧品
株式会社ニッピ・フジタ
大鳳商事株式会社
大倉フーズ株式会社
NIPPI COLLAGEN NA INC.
日皮（上海）貿易有限公司
日皮胶原蛋白（唐山）有限公司
ニッピ都市開発株式会社
株式会社ボーグ

関連会社

株式会社マトリクソーム

関係団体

一般財団法人日本皮革研究所

本社ビル



テクノセンター



富士工場



富士宮工場



芝川工場



バイオマトリックス研究所



当社のDNA

「生み、育み、支える」

ものづくりへのこだわり

高品質

ユニーク

先取り

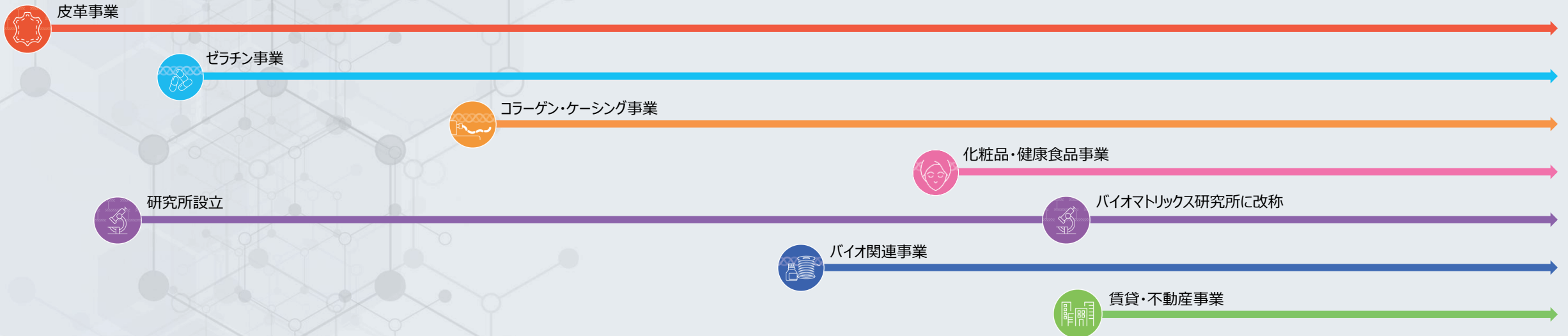
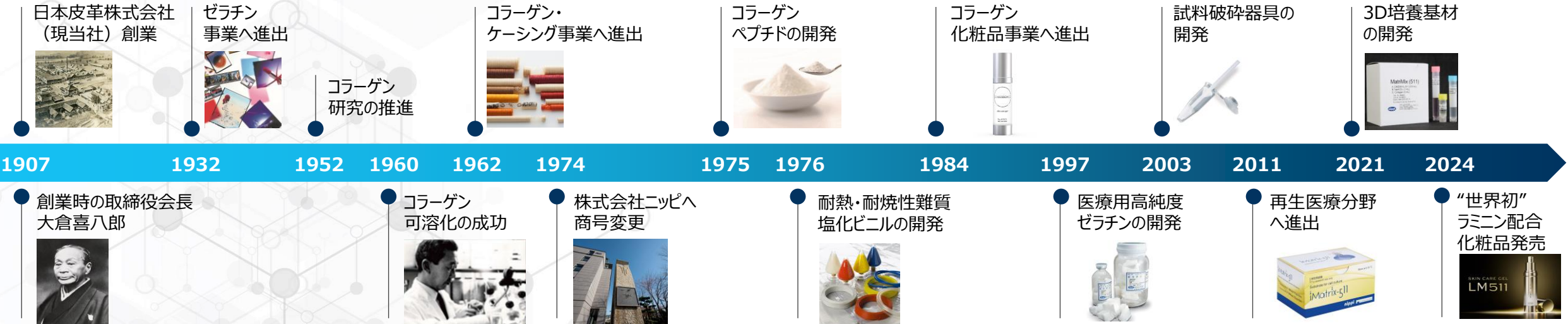
ありたい姿

タンパク質研究の
エキスパートとして
人々の生活の質の
向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し
ユニークな製品・サービスを提供

事業創出の歴史

皮革事業の会社として創業し、社会の変化に合わせて新規事業を創出してまいりました



主な製品

タンパク質研究を根幹に、幅広い製品を製造・販売しております

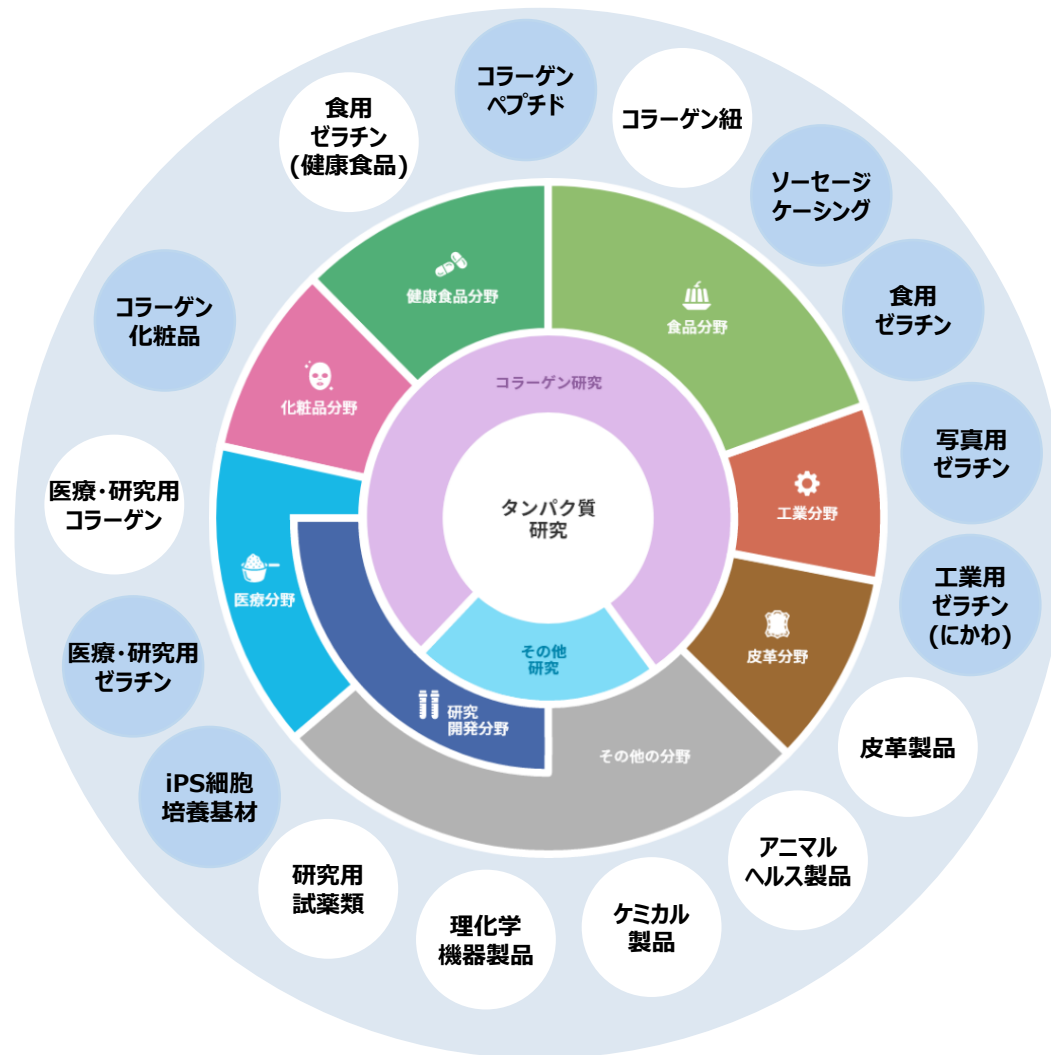
コラーゲン化粧品

コラーゲンを配合したスキンケア製品。コラーゲンは肌、骨、関節、髪などに含まれるタンパク質で、特に肌のうるおいや弾力、ハリを保つ役割がある



iPS細胞培養基材

iPS細胞を培養するための足場材。細胞の増殖や分化に影響を与えるため、iPS細胞の研究や再生医療において非常に重要である。当社はタンパク質の一種であるラミニンを組換体で製造している



コラーゲンペプチド

コラーゲンを酵素や熱などで小さく分解し、断片（ペプチド）にしたもの。水に溶け、腸から吸収されやすいため、体内利用される

ニッピペプタイド®
Collagenomics®



コラーゲンケーシング

コラーゲンが主原料であるソーセージなどの皮。牛皮のコラーゲン繊維を円筒フィルム上に成形・乾燥して作られる。多くは可食性で、食肉加工で広く使用される



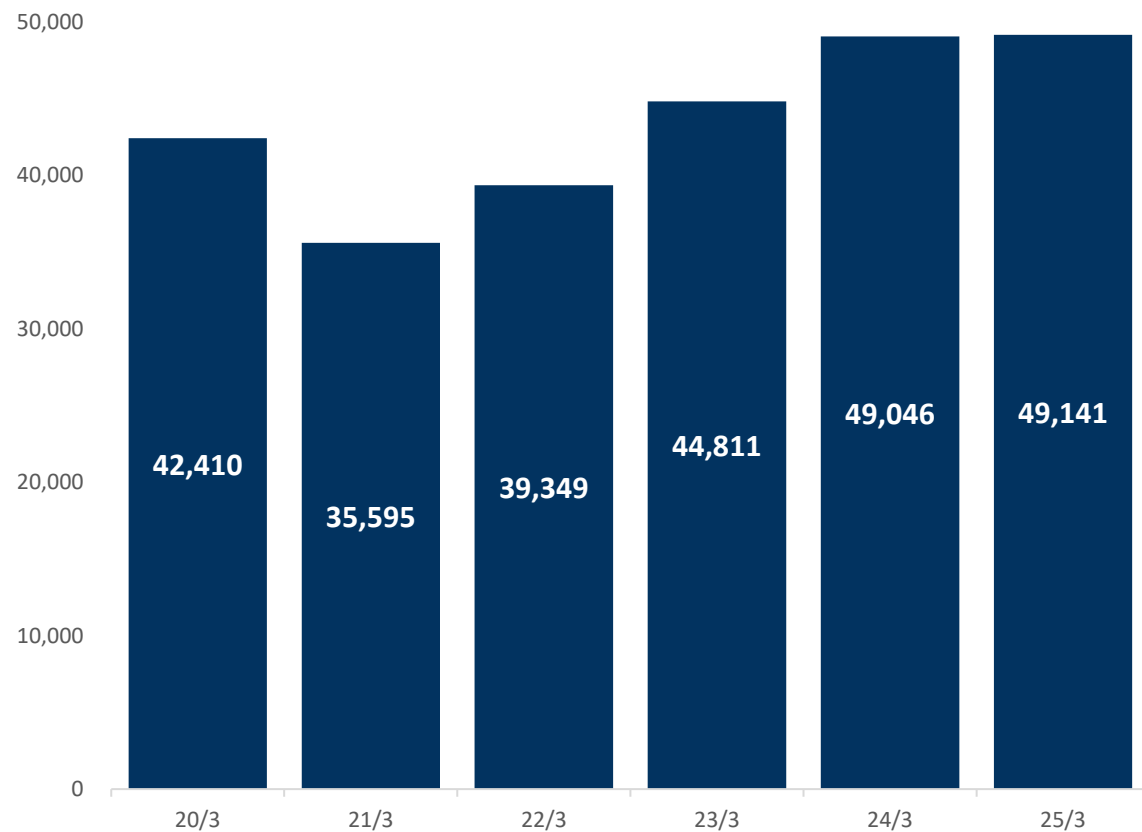
ゼラチン

コラーゲンの三重らせん構造が熱で解けて、水に溶ける構造に変わったもの。無色無味でゼリーやグミなどのお菓子、レンジアップ麺やチルド弁当などの食品のほか、医療用途、工業用途、写真などにも使われる



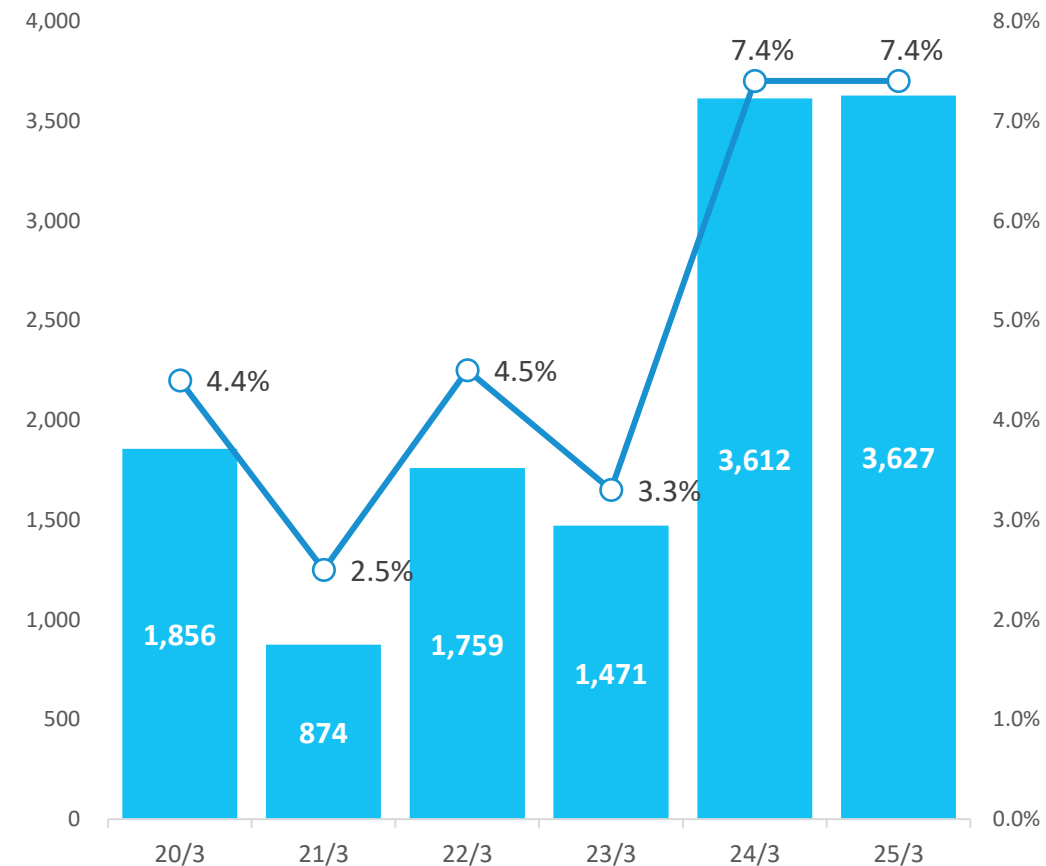
売上高

(百万円)



営業利益 / 営業利益率

(百万円)



事業紹介



ゼラチン関連事業

生産拠点

富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチン及びコラーゲンペプチドを取り扱い。ゼラチンは古くから私たちの暮らしに活用され、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、様々な機能性が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶解させることが容易なため、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤など様々な用途で使用されている。最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。



※ニッピーペプチド、Collagenomicsは、ニッピの登録商標です



コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点

富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピー コラーゲン ケーシング」や可食性の紐「ニッピー スtring」を取り扱い。ケーシングは100%ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のご要望に幅広く対応し提供している。植物性色素を用いたカラーケーシングや天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。ソーセージの皮にイラストをプリントする方法は当社独自の技術。静岡県富士宮市の生産拠点で、富士山の天然水を使用して製造し、世界30カ国以上に輸出。Stringは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。



事業紹介



バイオ・ケミカル事業部

生産拠点 ニッピテクノセンター（東京・足立区）

コラーゲン及びゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能素材や高付加価値製品を取り扱う。

バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用衣料品などの製品を製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱い。

ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等のケミカル製品を取り扱う。



医療用コラーゲン



バイオマトリックス研究所

研究開発拠点 バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

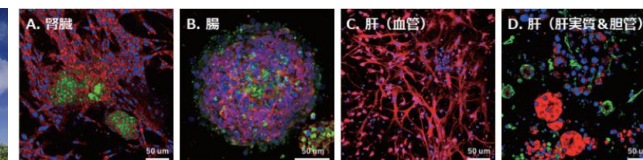
ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着しています。その主成分は、コラーゲンというタンパク質。

コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30%を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在して、多様な細胞や組織が清浄機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。

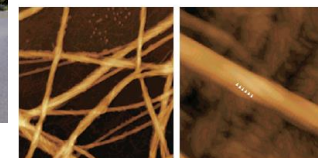
バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞化学を中心とした、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。



バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）



三次元培養基材によるオルガノイド形成



コラーゲン再構成繊維の原子間力顕微鏡像



化粧品関連事業

当社は、コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を提供。
主力商品として「コレセンス スキンケアジェル」と「ニッピーコラーゲン100」があり、ロングセラーに。子会社である株式会社ニッピーコラーゲン化粧品において、通信販売によりお客様にお届け。



エヴァライジングシリーズ



エクシードシリーズ



UVケア



コレセンス
エンリッチ ナイトマスク



コレセンス
スキンケアジェル



ニッピーコラーゲン100



皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピー・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。



革巻ステアリング



賃貸・不動産事業

当社開発推進室では、土地再開発計画立案から実現まで、計画管理運営等不動産事業全般を推進。
東京本社所在地、京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業及び土地開発事業に取り組むなど、当該地区の資産価値の増大に貢献。



みらい千住

ポンテグランデTOKYO

PONTE GRANDE・TOKYO

●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、
●人と人 の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。